

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-84441

(P2020-84441A)

(43) 公開日 令和2年6月4日(2020.6.4)

(51) Int.Cl.			F I	テーマコード (参考)		
EO1C	13/00	(2006.01)	EO1C	13/00	A	2D051
EO1C	7/35	(2006.01)	EO1C	7/35		
EO1C	7/26	(2006.01)	EO1C	7/26		
EO1C	7/32	(2006.01)	EO1C	7/32		

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2018-216156 (P2018-216156)
 (22) 出願日 平成30年11月19日 (2018.11.19)

(71) 出願人 000232508
 日本道路株式会社
 東京都港区新橋1丁目6番5号
 (74) 代理人 100083806
 弁理士 三好 秀和
 (74) 代理人 100101247
 弁理士 高橋 俊一
 (74) 代理人 100095500
 弁理士 伊藤 正和
 (74) 代理人 100098327
 弁理士 高松 俊雄
 (72) 発明者 近藤 雄一
 東京都港区新橋1丁目6番5号 日本道路株式会社内

最終頁に続く

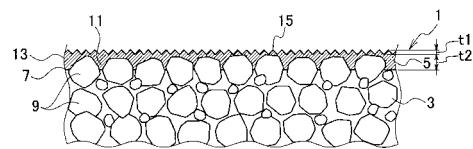
(54) 【発明の名称】ランナーに負担の少ない舗装

(57) 【要約】

【課題】ランナーの走行性を優れたものとしつつ構成が簡素であるランナーに負担の少ない舗装を提供する。

【解決手段】透水性を備えたアスファルトコンクリート3と、樹脂混合物で構成されており、アスファルトコンクリート3を覆っており、下層部7が所定の深さにわたりアスファルトコンクリート3内に浸透しており、上層部13の上面に凹凸模様15が形成されているエンボス層5とを有するランナーに負担の少ない舗装1である。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

透水性を備えたアスファルトコンクリートと、
樹脂混合物で構成されており、前記アスファルトコンクリートを覆っており、下層部が
所定の深さにわたり前記アスファルトコンクリート内に浸透しており、上層部の上面に凹
凸模様が形成されているエンボス層と、
を有することを特徴とするランナーに負担の少ない舗装。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のランナーに負担の少ない舗装において、
前記エンボス層を構成している樹脂混合物は、少なくとも一部が樹脂と所定の粒径の砂
状材料を含む混合物で構成されていることを特徴とするランナーに負担の少ない舗装。 10

【請求項 3】

請求項 2 に記載のランナーに負担の少ない舗装において、
前記エンボス層を構成している樹脂混合物の総てが樹脂と所定の粒径の砂状材料を含む
混合物で構成されていることを特徴とするランナーに負担の少ない舗装。

【請求項 4】

請求項 2 に記載のランナーに負担の少ない舗装において、
前記エンボス層は、第 1 の層と第 2 の層とで備えて構成されており、
前記第 1 の層は、砂状材料を含んでいない樹脂材料のみで構成されており、前記下層部
を構成している下側部位と、この下側部位を覆っている層状の上側部位とで構成されてお
り、 20
前記第 2 の層は、樹脂と所定の粒径の砂状材料を含む混合物で構成されており、上面に
前記凹凸模様が形成されていることを特徴とするランナーに負担の少ない舗装。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ランナーに負担の少ない舗装に係り、特に、アスファルトコンクリートが樹
脂混合物で覆われているものに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、図 1 2 で示すような陸上競技用トラック 3 0 1 が知られている。従来、陸上競技
用トラック 3 0 1 は、透水性を備えたアスファルトコンクリート 3 0 3 の上に、ゴムチップ
またはウレタンで構成されている、9 mm 程度の厚さの耐久層 3 0 5 を設け、この耐久
層 3 0 5 の上に、ウレタンで構成されている、厚さ 3 mm 程度の中間層 3 0 7 を設け、こ
の中間層 3 0 7 の上にウレタンで構成されている厚さ 1 mm 程度のエンボス層 3 0 9 を設
けたことで形成されている。 30

【0003】

ここで、従来、技術に関する文献としてたとえば特許文献 1 を掲げることができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】 40

【特許文献 1】特開 2 0 1 1 - 1 2 7 2 8 8 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ところで、従来、陸上競技用トラック 3 0 1 は、ランナーの走行性には優れているが、
各層 3 0 5、3 0 7、3 0 9 を積層しているので、構造が煩雑であるという問題がある。

【0006】

本発明は、上記問題点に鑑みてなされたものであり、ランナーの走行性を優れたものと
しつつ構成が簡素であるランナーに負担の少ない舗装を提供することを目的とする。 50

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1に記載の発明は、透水性を備えたアスファルトコンクリートと、樹脂混合物で構成されており、前記アスファルトコンクリートを覆っており、下層部が所定の深さにわたり前記アスファルトコンクリート内に浸透しており、上層部の上面に凹凸模様が形成されているエンボス層とを有するランナーに負担の少ない舗装である。

【0008】

請求項2に記載の発明は、請求項1に記載のランナーに負担の少ない舗装において、前記エンボス層を構成している樹脂混合物は、少なくとも一部が樹脂と所定の粒径の砂状材料を含む混合物で構成されていることを特徴とするランナーに負担の少ない舗装である。

10

【0009】

請求項3に記載の発明は、請求項2に記載のランナーに負担の少ない舗装において、前記エンボス層を構成している樹脂混合物の総てが樹脂と所定の粒径の砂状材料を含む混合物で構成されているランナーに負担の少ない舗装である。

【0010】

請求項4に記載の発明は、請求項2に記載のランナーに負担の少ない舗装において、前記エンボス層は、第1の層と第2の層とで備えて構成されており、前記第1の層は、砂状材料を含んでいない樹脂材料のみで構成されており、前記下層部を構成している下側部位と、この下側部位を覆っている層状の上側部位とで構成されており、前記第2の層は、樹脂と所定の粒径の砂状材料を含む混合物で構成されており、上面に前記凹凸模様が形成されているランナーに負担の少ない舗装である。

20

【発明の効果】

【0011】

本発明によれば、ランナーの走行性を優れたものとしつつ構成が簡素であるランナーに負担の少ない舗装を提供することができるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装を示す図である。

【図2】本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装とランナーの足を示す図である。

30

【図3】本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装に使用されるプライマの組成等を示す図である。

【図4】本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装に使用されるウレタン樹脂混合物の原液性状を示す図である。

【図5】本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装に使用されるウレタン樹脂混合物の塗膜性能を示す図である。

【図6】本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装に使用されるトップコート材を示す図である。

【図7】本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装と変形例に係るランナーに負担の少ない舗装のイメージ図と特徴を示す図である。

40

【図8】本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装と変形例に係るランナーに負担の少ない舗装の施工手順を示す図である。

【図9】本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装の斜視図である。

【図10】比較例に係るトラックと本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装とにおけるCS硬度を示す図である。

【図11】比較例に係るトラックと本発明の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装とにおけるGB・SB係数を示す図である。

【図12】従来の上陸競技用トラックを示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0013】

50

本発明の第1の実施形態に係るランナーに負担の少ない舗装1は、たとえば陸上競技用のトラックに採用されるものであり、図1や図9等で示すように、アスファルトコンクリート(アスファルトコンクリートの層)3とエンボス層5と備えて構成されている。

【0014】

アスファルトコンクリート3は、たとえば、透水性を備えている。エンボス層5は、樹脂混合物(硬化しても弾性を備えた樹脂混合物)で構成されており、アスファルトコンクリート3の上側でアスファルトコンクリート3を層状になって覆っている。

【0015】

また、アスファルトコンクリート3の下層部7が、所定の深さ t_2 (たとえば10mm程度)にわたりアスファルトコンクリート3内に浸透している。すなわち、下層部7がアスファルトコンクリート3を構成している部材9の隙間で形成されている空間11内に入り込んでいることで、アスファルトコンクリート3に拘束されている。

【0016】

アスファルトコンクリート3の上層部13は、アスファルトコンクリート3には浸透しておらず、下層部7の上側で下層部7を、厚さ t_1 (たとえば2mm~3mm程度)の層状になって覆っている。また、上層部13の上面には、凹凸模様(エンボス)15が形成されている。

【0017】

エンボス層5は、たとえば、薄い層状のプライマ(接合剤;図示せず)のみを間にしてアスファルトコンクリート3に接合されているか、もしくは、アスファルトコンクリート3に直接接触してアスファルトコンクリート3に接合されている。

【0018】

たとえば、アスファルトコンクリート3の表面にプライマを薄く塗布しておいてエンボス層5を形成したときに、プライマの塗布がされたアスファルトコンクリート3の部位では、プライマのみを間にして、エンボス層5がアスファルトコンクリート3に接合されており、プライマが塗布できなかったアスファルトコンクリート3の部位では、エンボス層5がアスファルトコンクリート3に直接接触してアスファルトコンクリート3に接合されている。なお、プライマが削除されている構成であってもよい。

【0019】

エンボス層5は、耐候性を高めるために、トップコート材で構成されているコート層(図示せず)で覆われているが、コート層が削除されていてもよい。

【0020】

また、エンボス層5を構成している樹脂混合物は、少なくとも一部が樹脂(たとえばウレタン樹脂)と所定の粒径の砂状材料(たとえば5号硅砂)17(図7参照)を含む混合物で構成されている。

【0021】

さらに説明すると、エンボス層5を構成している樹脂混合物は、図7の「舗装B」の下の描かれているイメージ図のように、この総てが樹脂(たとえばウレタン樹脂)と所定の粒径の5号硅砂17を含む混合物で構成されている。

【0022】

図7の舗装Bで示すランナーに負担の少ない舗装1では、エンボス層5が1層になっており、エンボス層5の総てが樹脂と所定の粒径の5号硅砂17を含む混合物で構成されているので、エンボス層5を構成する樹脂の使用量が少なくなっており、廉価なものになっている。

【0023】

ここで、ランナーに負担の少ない舗装1(舗装B)の施工方法について、図8を参照しつつ説明する。

【0024】

まず、透水性を備えたアスファルトコンクリート3に、プライマを塗布する(プライマ塗布工程)。

10

20

30

40

50

【0025】

プライマ塗布工程でプライマを塗布した後、透水性を備えたアスファルトコンクリート3内に下層部7が所定の深さにわたり浸透し、上層部13がアスファルトコンクリート3を覆うように、未硬化の樹脂混合物を設置する（樹脂混合物設置工程）。

【0026】

上述したように、樹脂混合物設置工程で使用される樹脂混合物の総ては、樹脂と所定の粒径の砂状材料（たとえば5号珪砂）17を含む混合物で構成されている。

【0027】

また、未硬化の樹脂混合物が硬化する前に、鎖骨ローラ等の器具を用いて、樹脂混合物にエンボスを形成する（エンボス形成工程）。

【0028】

エンボス形成工程でエンボスを形成したエンボス層5が硬化した後、エンボス層5にトップコート材を塗布する（トップコート材塗布工程）。

【0029】

なお、プライマ塗布工程で使用されるプライマの量は、 0.2 kg/m^2 程度であり、樹脂混合物設置工程で使用される樹脂混合物の量は、 2.5 kg/m^2 程度であり、トップコート材塗布工程で使用されるトップコート材の量は、 0.3 kg/m^2 程度である。

【0030】

また、エンボス層における樹脂と砂状材料（珪砂）17との質量比は、たとえば、1.0 : 0.5程度になっている。

【0031】

ここで、プライマ、エンボス層5を構成している樹脂混合物、コート層をトップコート材について例を掲げて詳しく説明する。

【0032】

プライマの組成や性状は、図3で示すようになっている。たとえば、プライマはウレタン系樹脂で構成されており、25における粘度は、 $20 \pm 15 \text{ mpa} \cdot \text{s}$ になっている。

【0033】

樹脂混合物の原液性状（A液、B液の原液性状）は、図4で示すようになっている。たとえば、主材であるA液（主剤）の25における粘度は、 $9000 \pm 3000 \text{ mpa} \cdot \text{s}$ になっており、硬化剤であるB液（硬化剤）の25における粘度は、 $7000 \pm 3000 \text{ mpa} \cdot \text{s}$ になっている。A液とB液との質量比は、たとえば、1 : 2程度になっており、A液とB液とを混合したときの粘度は $8000 \pm 3000 \text{ mpa} \cdot \text{s}$ になっている。

【0034】

エンボス層5の塗膜性状は、図5で示すようになっている。たとえば、エンボス層5の硬さは、規格値が20で40~60であるのに対し、測定値が54（JISK-6253デュロメーターA）になっており、エンボス層5の伸びは、規格値が500%以上であるのに対し、測定値が750%（JISK-6251）になっている。

【0035】

トップコート材は、図6で示すようになっている。たとえば、ウレタン樹脂であるA液とアクリルエナメル塗料であるB液との混合物で構成されており、A液とB液との質量比は、たとえば、1 : 4程度になっている。

【0036】

ランナーに負担の少ない舗装1によれば、アスファルトコンクリート3と、樹脂混合物で構成されており下層部7が所定の深さにわたりアスファルトコンクリート3内に浸透して上層部13の上面に凹凸模様15が形成されているエンボス層5とで構成されているので、ランナーの走行性を優れたものにすることができるとともに、従来の陸上競技用トラック301の舗装に比べて構成を簡素にして安価にすることができる。

【0037】

10

20

30

40

50

さらに説明すると、エンボス層 5 を構成している樹脂（たとえばウレタン樹脂）の弾性により、着地時におけるランナーの足の踵にかかる力が吸収され、ランナーの足腰への負担が少なくなる。また、エンボス層 5 の下に設けられているアスファルトコンクリート 3 により、蹴り出し時につま先にかかる力を効率良くランナーに負担の少ない舗装に伝えることができる。また、通常のアスファルト舗装よりも衝撃吸収性に優れており、一般的な陸上競技用トラックの舗装よりも安価になっている。

【0038】

また、ランナーに負担の少ない舗装 1 によれば、透水性を備えたアスファルトコンクリート 3 の隙間で形成されている空間 1 1 内にエンボス層 5 の下層部 7 が入り込んでいるので、エンボス層 5 がアスファルトコンクリート 3 に拘束されており、ランナーの走行時における横ブレを抑制することができる。

10

【0039】

また、ランナーに負担の少ない舗装 1 によれば、エンボス層 5 を構成している樹脂混合物に 5 号硅砂等の所定の粒径の砂状材料 1 7 が添加されているので、薄いエンボス層 5 であってもエンボス 1 5 を形成することが容易になっている。

【0040】

すなわち、5 号硅砂 1 3 が添加されていることで、エンボス層 5 を構成している樹脂混合物（硬化前の樹脂混合物）の見かけの粘度が上がり、硬化前の樹脂混合物でのエンボス 1 5 の形成がしやくなる。

【0041】

また、ランナーに負担の少ない舗装 1 によれば、エンボス層 5 を構成している樹脂混合物の総てが 5 号硅砂等の所定の粒径の砂状材料 1 7 を含む混合物で構成されているので、エンボス層 5 の施工工程が簡素化される。

20

【0042】

次に、本発明の第 2 の実施形態（変形例）に係るランナーに負担の少ない舗装 1 a について図 7 の「舗装 A」のところを参照しつつ説明する。

【0043】

変形例に係るランナーに負担の少ない舗装 1 a は、エンボス層 5 の構成が上述したランナーに負担の少ない舗装 1 と異なり、その他の点は、ランナーに負担の少ない舗装 1 とほぼ同様に構成されている。

30

【0044】

ランナーに負担の少ない舗装 1 a のエンボス層 5 は、第 1 の層 1 9 と第 2 の層 2 1 とを備えて構成されている。

【0045】

第 1 の層 1 9 は、砂状材料を含んでいない樹脂材料のみで構成されており、下層部 7 を構成している下側部位と、この下側部位を覆っている層状の上側部位とで構成されている。

【0046】

第 2 の層 2 1 は、樹脂（たとえばウレタン樹脂）と所定の粒径の砂状材料（たとえば 5 号硅砂）1 7 を含む混合物で構成されており、上面に凹凸模様（エンボス）1 5 が形成されている。

40

【0047】

図 7 の舗装 A で示すランナーに負担の少ない舗装 1 a では、エンボス層 5 が 2 層 1 9、2 1 になっており、第 1 の層 1 9 が砂状材料を含んでいない樹脂材料のみで構成されており、第 2 の層 2 1 が、樹脂と所定の粒径の砂状材料 1 7 を含む混合物で構成されているので、樹脂材料の使用量は若干増えるが、エンボス層 5 がより弾性変形しやすくなっており、ランナーの足腰への負担が一層少なくなる。

【0048】

ここで、ランナーに負担の少ない舗装 1 a（舗装 A）の施工方法について、図 8 を参照しつつ説明する。

50

【0049】

まず、透水性を備えたアスファルトコンクリート3に、プライマを塗布する（プライマ塗布工程）。

【0050】

プライマ塗布工程でプライマを塗布した後、透水性を備えたアスファルトコンクリート3内に下層部7が所定の深さにわたり浸透し、上層部13がアスファルトコンクリート3を覆うように、未硬化の樹脂混合物を設置する（樹脂混合物設置工程）。

【0051】

この樹脂混合物設置工程は、第1の層19を形成する工程と第2の層21を形成する工程とで構成されている。

10

【0052】

第1の層19を形成する工程では、砂状材料を含んでいない樹脂材料のみで構成されている樹脂混合物をアスファルトコンクリート3に設置する。

【0053】

第2の層21を形成する工程では、第1の層19を設置し第1の層19が硬化した後、樹脂（たとえばウレタン樹脂）と所定の粒径の砂状材料（たとえば5号珪砂）17を含む混合物で構成されて樹脂混合物を、第1の層19の上に設置する。

【0054】

続いて、第2の層21を構成する樹脂混合物が硬化する前に、鎖骨ローラ等の器具を用いて、樹脂混合物にエンボスを形成する（エンボス形成工程）。

20

【0055】

エンボス形成工程でエンボスを形成したエンボス層5が硬化した後、エンボス層5にトップコート材を塗布する（トップコート材塗布工程）。

【0056】

なお、プライマ塗布工程で使用されるプライマの量は、 0.2 kg/m^2 程度であり、樹脂混合物設置工程の第1の工程で使用される樹脂混合物の量は、 2.0 kg/m^2 程度であり、樹脂混合物設置工程の第2の工程で使用される樹脂混合物の量は、 1.0 kg/m^2 程度であり、トップコート材塗布工程で使用されるトップコート材の量は、 0.3 kg/m^2 程度である。

【0057】

また、エンボス層の第2の工程における樹脂と珪砂17との質量比は、たとえば、1.0:0.5程度になっている。

30

【0058】

ランナーに負担の少ない舗装1aによれば、エンボス層5の第1の層19が砂状材料を含んでいない樹脂材料のみで構成されており、エンボス層5の第2の層（第1の層の上で第1の層を覆っている第2の層）21が、樹脂（たとえばウレタン樹脂）と所定の粒径の砂状材料（たとえば5号珪砂）17を含む混合物で構成されているので、エンボス15を形成しやすくなっていると同時に、エンボス層15が一層弾性変形しやすくなり、ランナーの足にかかる負担を一層軽減することができる。

【0059】

ここで、ランナーに負担の少ない舗装1、1aの路面性状について、図10、図11、図2を参照しつつ説明する。

40

【0060】

図10にCS硬度を示す。「ポーラス」の棒グラフは、透水性を備えたアスファルトコンクリート舗装（比較例）のものであり、「密粒度」の棒グラフは、通常のアスファルト舗装（比較例）のものであり、「ランナーB」の棒グラフは、ランナーに負担の少ない舗装1のものであり、「ランナーA」の棒グラフは、ランナーに負担の少ない舗装1aのものである。

【0061】

アスファルトコンクリート舗装や通常のアスファルト舗装に比べて、ランナーに負担の

50

少ない舗装 1、1 a のほうが C S 硬度の値が小さくなっており、ランナーの足腰への負担が少なくなる。

【 0 0 6 2 】

図 1 1 に G B ・ S B 係数を示す。「ポーラス」の左側の棒グラフは、透水性を備えたアスファルトコンクリート舗装（比較例）の G B 係数を示しており、「ポーラス」の右側の棒グラフは、透水性を備えたアスファルトコンクリート舗装（比較例）の S B 係数を示している。

【 0 0 6 3 】

「密粒度」の左側の棒グラフは、通常のアスファルト舗装（比較例）の G B 係数を示しており、「ポーラス」の右側の棒グラフは、通常のアスファルト舗装（比較例）の S B 係数を示している。

10

【 0 0 6 4 】

「ランナー B」の左側の棒グラフは、ランナーに負担の少ない舗装 1 の G B 係数を示しており、「ポーラス」の右側の棒グラフは、ランナーに負担の少ない舗装 1 の S B 係数を示している。

【 0 0 6 5 】

「ランナー A」の左側の棒グラフは、ランナーに負担の少ない舗装 1 a の G B 係数を示しており、「ポーラス」の右側の棒グラフは、ランナーに負担の少ない舗装 1 a の S B 係数を示している。

【 0 0 6 6 】

G B 係数が小さいほど、図 2 に示すように、着地時にランナーの足の踵にかかるにかかる力（受動的衝撃力）の値を小さくすることができ、着地時に足にかかる負担を少なくすることができる。S B 係数の値が大きいほど、足をけり出すときにランナーに負担の少ない舗装 1、1 a からつま先が受ける力（能動的衝撃力）の値を大きくすることができ、足のけり出しがしやすくなる。

20

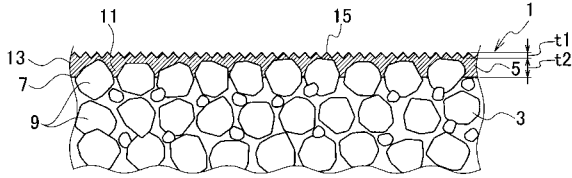
【 符号の説明 】

【 0 0 6 7 】

- 1、1 a ランナーに負担の少ない舗装
- 3 アスファルトコンクリート
- 5 エンボス層
- 7 下層部
- 1 3 上層部
- 1 5 凹凸模様（エンボス）
- 1 7 砂状材料
- 1 9 第 1 の層
- 2 1 第 2 の層

30

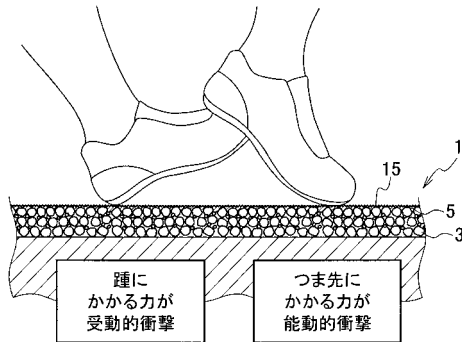
【 図 1 】



【 図 3 】

項目	組成・性状
組成	ポリウレタン系
外観	暗褐色透明液体
粘度(25℃)	20±15 mpa・s/25℃
液比重(25℃)	0.99
固形分	45%
接触乾燥(25℃)	1時間(0.1kg/m ² 塗布)

【 図 2 】



【 図 4 】

項目	A液 主剤	B液 硬化剤	試験方法、その他
外観	淡黄色透明液体 異物混入しないこと	カラ一色(各色) 異物混入しないこと	目標判定
粘度(mPa・s/25℃)	9,000±3,000	7,000±3,000	JIS K 6833
混合粘度(mPa・s/25℃)	8,000±2,000		JIS K 6833
可使時間(分/25℃)	80±20		10万mPa・S到達時間
初期硬化時間(Hr/25℃)	24±5		
荷姿	9kg入り/9kg缶	18kg入り/18kg角缶	
消防法の危険物判定	指定可燃物 可燃性液体類	指定可燃物 可燃性液体類	
配合比(A液:B液)	1	2	

【 図 5 】

項目	規格値	測定値	試験方法
硬さ(塗膜硬度)	20℃ 40~60	54	JIS K-6253デュロメータA
密度	1.25~1.35g/cm ²	1.32	
引張強さ	2.0MPa以上	4.77	JIS K-6251
伸び	500%以上	750	JIS K-6251
抗張積	250(N/mm)以上	715.5	JIS A-6021
引裂強度	12(N/mm)以上	16.4	JIS K-6252
耐摩耗性	600mg以下	49	JIS K-7204, テーパー摩耗試験 CS-17, 1kgf, 1000回
耐候性: 屋外暴露試験	ひびわれ、 チョーキング 退色などの著しい 劣化を生じないこと	異常なし	1年間以上屋外南面に暴露 又は過去に施工された競技場や コートなどの劣化状況判断による
耐候性: 促進暴露試験			JIS A-1415, WS-A型 ウェザーメータ1000時間
下地との接着性	20℃ 50N/25mm以上 50℃ 15N/25mm以上 または※アスコンの 凝集破壊	-	JIS K-6854, 90度剥利 下地-アスコン

【 図 6 】

項目	A液	B液	備考
組成	ウレタン樹脂	アクリルエナメル塗料	
外観	無色透明液	着色液	目視
加熱部分	40%	44%	JIS K-5400
粘度	12秒(フォードカップ)	1,500mPa・s	JIS K-5400
配合比	1	4	重量比
荷姿	3kg/5K角缶	12kg/18l缶	

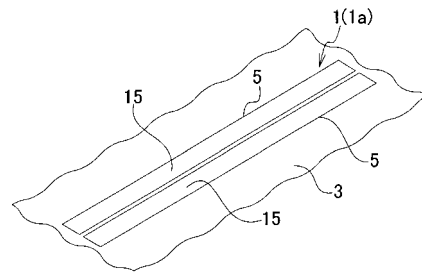
【 図 7 】

	舗装A	舗装B
イメージ図		
特徴	通常タイプ 2層仕上げ 材料(樹脂):多	廉価タイプ 1層仕上げ 材料(樹脂):少

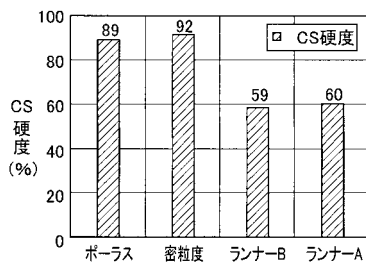
【 図 8 】

手順	種目	使用量		備考
		舗装A	舗装B	
(1)	清掃・養生	-	-	
(2)	プライマー塗布	0.2kg/m ²	0.2kg/m ²	
(3)	樹脂 敷きならし	2.0kg/m ²	-	
(4)	樹脂+珪砂 敷きならし	1.0kg/m ²	2.5kg/m ²	樹脂:珪砂=1.0:0.5
(5)	エンボス仕上げ	-	-	鎖骨ローラ使用
(6)	トップコート塗布	0.3kg/m ²	0.3kg/m ²	

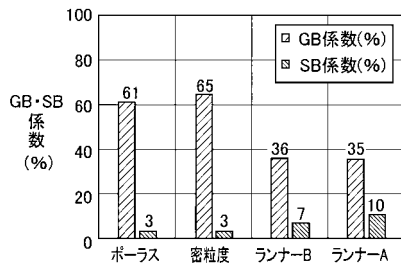
【 図 9 】



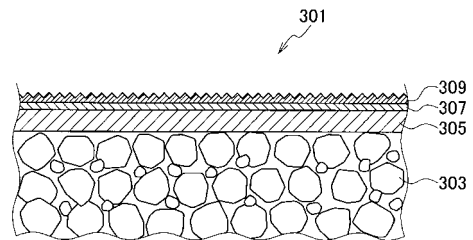
【 図 1 0 】



【 図 1 1 】



【 図 1 2 】



フロントページの続き

- (72)発明者 新島 慶介
東京都港区新橋1丁目6番5号 日本道路株式会社内
- (72)発明者 美馬 孝之
東京都港区新橋1丁目6番5号 日本道路株式会社内
- (72)発明者 池田 茜
東京都港区新橋1丁目6番5号 日本道路株式会社内
- (72)発明者 川崎 昭一
東京都港区新橋1丁目6番5号 日本道路株式会社内
- Fターム(参考) 2D051 AA08 AB04 AE05 AG11 EA01 EB05 EB06